

国内研修を終えて

私は2月14日から2月16日まで、国内研修の制度を使い、山形県の小国町というところに、小国町の現状と地域の活動やとりくみを見学しに行った。今回私がこの研修に参加したのは、今後、学年が進むにつれて専門的な演習が増えていくと、自分の専門とする領域以外のことについて学ぶ機会が少なくなると感じていたなか、今回の研修の話を耳にし、現地に行けるということもあり、ただの知識としてでなく、自分自身で体験でき、自分の考えや視野を広げる良い機会だと考えられたので参加した。

小国町は山形県の西南端に位置し、町の北に朝日連峰、南に飯豊連峰という雄大な山並みと町の面積94%を占める豊かな森林を有している。気候は日本海式気候でその影響もあり、日本有数の豪雪地帯で、積雪の多い年では町中心部で2m、周辺部では4m以上の積雪になることもある。町の産業構造は第2次産業が中心であり、山村には珍しい就業構造となっている。人口は、昭和30年以降減少傾向が継続していて、現在7887人となっており、また、老年人口（65歳以上）の人口が36.8%（県内4位の高齢化率）で少子・高齢化社会となっている。小国町では、町を象徴する「ブナ」と「雪」から、「白い森構想」を推進しつつ、町づくりを進めている。また、白い森を、小国町のブランドといている。

今回の研修では、まず、一日目に、小国町役場の説明を受けました。庁舎では、住民の生活の支援や、町での教育の方針、年度ごとの財源の使用予定などを決めたりしていることが知れた。国会中継で映されるような部屋があることは今まで知らなかったのが驚いた。また、庁舎の中には、小国町の豊かな森林を活かした、木造を主とした建造がされている部分があった。次に、庁舎を出て町内を案内された。公民館や、病院、小学校などの案内と説明がされた。公民館は耐震性の問題があり、改築される予定であると説明がされた。長い間町民に親しまれた建物をただ取り壊すのではなく、今後も使えるようにとのことらしく、自分の地元でもおこなわれてほしい取り組みだと思った。病院では、歯科や内科など様々な科が集められており、この病院に来れば一通りの治療に対応できるようにしてあった。この体制では、採算がとれてないらしいが、町民のことを第一に考えられているなと感じた。また、病院には、介護施設が併設されていた。この施設の他にも介護施設があるのだが、どちらも満室で、病院に入院された高齢者の方がそのまま、お亡くなりになられるまで病院で過ごすしかない、という事例も少なくないようで、高齢者社旗が抱える、今後の日本でも対応を考える必要のある問題だと思われた。小国町では、学生の減少をうけて小学校を統合が行われていた。そのさい、小学校のなかに学童を設け、バスを学校で走らせるという対応をとっていた。また、これまで小学校があった土地での交流を保つためにその土地に小学生が行き、その地域の人々と交流を保つ取り組みをしている。ほかに、バリアフリーが徹底されていることや教

室の基本的にドアが開放された状態であったり、タブレットや電子黒板の導入など今後の社会で必要になるであろう情報教育、また、英語の授業にも力を入れていたりするなど、ただ新しい建物で終わらず、時代のニーズに対応したとりくみが行われていた。来年度からの、授業時間の確保の仕方も、単純にどこかの曜日に一限分増やしていった対応するのではなく、朝の時間を少しずつ利用して対応する予定であるなど、生徒に対して真摯に取り組む姿には、どの職に自分がつくにしても、見習っていきたい姿勢だと感じた。この、小学校も、庁舎同様、小国町の森林資源を生かした木造の建築物であった。一日目最後には、庁舎に戻り、町長面会とまちづくりに関する概要説明がされた。ここでは、具体的な行財政の状況や保健・医療、福祉、教育施設などの状況や取り組み、まちづくりの歩みについて知れた。例えば、町の住民には医療費が免除されることや、移住してきた人に対しての支援などが行われている。財源については、今年度は、積雪量がおおく臨時の会議により予算の見直し等が行われていて、私たちが話を聞いている最中にもアナウンスがあり、リアルタイムで対応しているのだなと感じた。データなどの調べればわかることでなく、その具体的な使われ方やそれまでの経緯など、ふつうにはなかなか聞くことのない話を聞けてとても貴重な経験だった。

二日目には、地域食文化体験として、漬物やみそ汁などをつくり、それを昼食としていただいた。その際、早稲田大学の生徒と交流があり、お互いにどのようなことをあいにきているのかなど意見の交流を交わすこともできた。最後に、小国町で現在活動している、地域おこし協力隊の方の話を聞いた。その方は、もともとは幼稚園であった場所を地域の方の交流の場として使えるための管理と交流を促すために企画の考案などをしてきた。地域で盛んな輪投げの大会を開いたり、幼稚園のアルバムを訪問してくれた方に自由に見られるようにしたりするなど、さまざまな取り組みを行ったかいもあり、多くの方が利用してくれるようになったと嬉しそうに話す姿がいんしょうてきだった。面会中に、地域の方が、大学生が来ているという話を聞いて差し入れを持ってきてくれたさいには、この施設は本当に地域の人々に大切な場所になっているのだなと感じた。

今回の研修を通して、私の専攻する学科にたいして直接的に活かされる学びは事前に予想していたとおりであまりなかったが、それ以上に普通では学べないことや、貴重な話を聞くことのできたとても有益な研修であったと感じる。自分個人で行くには大変であったところに行けたり、町長との話を聞くなどのように取り付けにくいことでも経験できたりするなど、学校としてのとりくみだからこその強みがあるので、自分の学部や学科に関係ないから行かないという人や、行きたいけど学部学科に関係するのがないため行かないという人にも、社会について知る機会としてぜひ一度行くか考えてほしいと感じた。実際、今回の研修では、過疎で少子高齢化の進む町における対策や取り組みなど、今後、日本で重要な課題となる問題に対する対応について実際にそれに関わる方から話を聞き、さらに質疑応答もしてくれた。このように、社会に対して考えるよい場面を経験できた。今回の研修をとうして、地方の市町村のおかれている現状と地域おこしのしかたを知ることができた。しかし、

地方の市町村といっても、その所々で直面している課題に差があるし、その地域の強みも違うので、課題への対処の仕方やまちおこしの方針も違うと思うので、今回のような機会があれば、また参加し、学ぶことで自分の視野を広くするとともに、一回考えただけで終わりにせず、問題としての意識を持ち続けていきたい。